

平成28年度 第4回 都市環境デザイン委員会議事概要

日時：平成28年10月31日（月）13：30から

場所：帯広市役所10階第2会議室

出席委員

武士澤委員長、鳥宮副委員長、青木委員、赤嶺委員、藤平委員、紅葉委員

事務局

松原都市計画課長、白田基本計画係長、山崎主任、齋藤主任

説明員

住宅課：西川事業担当課長、建築営繕課：関主任補

議事

1. 開 会
2. 委員長挨拶
3. 平成28年度 都市景観形成主要建築物の協議について
4. 平成28年度 帯広市まちづくりデザイン賞の選考について
5. 景観スポット巡りについて
6. 閉 会

議事概要

<3. 平成28年度 都市景観形成主要建築物の協議について>

主な意見・質疑は次のとおりです。

【委員】

アクセントカラーや支柱のブラウン色のトーンについて、彩度や明度を落とした色調にできないか。周辺の団地やシンボルマークの印象に合わせるかたちで、ディープトーンやダルトーンなどの渋めの色合いが良いと思う。

【説明員】

色彩についてはまだ決まっていないので、ご意見を参考として、今後検討していきたいと思う。

【委員】

サッシはシルバー色になるのか。予算的な問題もあると思うがメタリックシルバー色などにするとシャープなイメージとなる。

【説明員】

シルバー色が一番安価である。公営住宅でどこまでやるか、予算的な問題もある。参考とさせていただきたい。

【委員】

アクセントカラーを取り入れる理由はなにか。ニーズはあるか。

【説明員】

同じ形の4棟が並ぶことから、アクセントカラーで色分けすることで見分けが付きやすくなる。目印となり分かりやすくなる、という点から取り入れている。

【委員】

北側駐車場に立木は植えるのか。

【説明員】

植える予定はない。高木を植えられるような敷地がないのが現状。後の管理上の問題もある。

【委員】

民間の事業では市から緑化率などが示されるので、緑化に対する姿勢を市が見せていく、という役割もあると思うが、この計画をみるとそういうスペースがない。歩道や道路沿いの緑化などでカバーできないか。歩行ネットワークはどのようになるか。

【説明員】

現状では、西側に歩道が整備されているが、東側は道路と歩道が明確に分けられていない。

【委員】

棟の西隣りに大きな公園があり、木がたくさんあるので、敷地内に木は無くてもよいと思うが、歩道はきちんと整備していただきたい。

【委員】

南側の花壇は住民の方々が植えられるようになるのか。

【説明員】

住民でつくる自治会で希望者を募り、その中で敷地を均等に分け合って植えてもらうこととなる。

【委員】

ゴミステーションはどのようなものか。

【説明員】

コンクリートの平板を並べ縁石で囲って、ゴミを置くスペースとするもの。東西のアプローチ横に一つずつ配置する。

【委員】

シンボルマークは公募するのか。農作物に決めた理由はなにか。

【説明員】

公募の予定はない。十勝の四大農作物である小麦、いも、豆、ビートをイメージさせるという発想から農作物のデザインとしたもの。

【委員】

今後への意見として、他の街区の改築などの整備をするときには、それぞれの集合体に「大空団地」としての共通項をもたせると、まとまり感がでると思う。

【説明員】

少なくとも、一つの街区のなかでは一団とみなせるような考え方にしていく必要がある。参考とさせていただきたい。

<4. 平成28年度 帯広市まちづくりデザイン賞の選考について>

応募案件について各委員の総評・評価点をまとめ、以下のとおり選考しました。

《最優秀賞》六花亭 西3条店

《優秀賞》十勝整形外科クリニック、こぼと薬局みなみ

<5. 景観スポット巡りについて>

主な意見・質疑は次のとおりです。

【委員】

スポット巡りは、次年度もどこか視察場所を決めて実施するのか。

【事務局】

来年度についてはまだ決まっていないが、委員会のなかでご意見を頂きながら、どのようにすすめるか検討していきたい。

【委員】

今年視察した「もりの山」は、樹木が生い茂っていて市内を一望することが出来なく残念に思った。枝払いなどをすることは難しいと伺っているが、今後どのようになるのか。冬になると葉が落ちて見やすくなるかと思ったが、冬になると見に行く機会がなくなる。

【委員】

木を切ることが難しいのであれば、山の上に何か工作物を作って登れるようにするのはどうか。

【委員】

今後の方向性を分かるようなかたちにして、中途半端に終わらないようにしてほしい。

【事務局】

ここまで整備したからには観光スポットになると良いと思うが、予算的な問題もある。頂いたご意見は担当に伝える。

【委員】

高齢者はフェイスブックは見ないと思うので、今後も、視察後はフェイスブックと新聞記事と同時に発信していくという形で進めていただきたい。

【事務局】

フェイスブックは昨年から配信しているが、今回のように委員会として視察することでフェイスブック以上に効果があったと思う。新聞記者がきてくれて記事になり、それがきっかけか分からないがとてっぽ通りや古建築の特集が組まれるなど、そのあとの拡がりがあった。来年度以降もこの事業を続け景観を配信していきたい。

【委員】

前にも話題になったが、一般の方に参加を募って実施するのはどうか。

【事務局】

具体的なことはまだ決められないが、広く公募するか、ある程度範囲をしぼったなかから決めるなどの方法があるかと思う。

以 上